

はじかれ野菜販売会 伊豆の国市で開催

地元産の魅力 多くの人に

【静岡支局】「地元野菜の魅力と農家さんの思いを伝えたい」と話すのは、「サルベジ」を企画する



瓶詰めを販売する岡本さん(右から2人目)

グラフィックデザイナーの岡本雅世さん(46)。さまざまな理由で出荷できなくなった「はじかれ野菜」の販売イベントを伊豆の国市で開く。スペイン語で「乾杯」を意味する「サル」、英語で「救い出す」の「サルベジ」と野菜の「ベジタブル」を組み合わせて名付けた。



多くの人でにぎわう会場

を購入すると、はじかれ野菜の詰め放題が毎回500円でできる。買い物かごには、岡本さんが考案したキヤクターをデザイン。はじかれ野菜を使ったジャムやソースなどの瓶詰めを企画し、販売にも取り組む。

ミニハクサイやロメインレタスなどを提供するのには、箱根西麓三島野菜の若手生産農家で結成した「箱根西麓のうみんず」。代表の前島弘和さん(38)は「野菜に関心を持ってもらうきっかけになれば」と期待を寄せる。

岡本さんは「サルベジ」で野菜を見てもらう。正規品の野菜を使ってもらう。はじかれ野菜を楽しんでもらう。このことを目標に活動を続けていきたい」と展望を話す。(厚見)